

下痢になります。したがって、調子の悪くないうちに抗生剤を予防的に飲んでおこうとか、十分良くなっているのにいつまでも飲み続けるとするのはあまり良くないことです。つまり、必要がない時に抗生剤を使いすぎると抗生剤が効かない菌である耐性菌をつくってしまうという副作用の他に、下痢になってしまうという副作用が生じることになるからです。もちろん、理由があって処方されている場合は例外にはなりません。

これを防ぐために処方されるのが整腸剤です。抗生剤でも死なないような乳酸菌が製剤化されており、下痢になるのをある程度防いでくれます。

一方、原料である食べ物がないときにも同様なことが起こります。重症で入院されて点滴だけの栄養が長く続くと下痢気味になるのはこのためです。

感染性大腸炎の時も同様な理由で細菌やウイルスの感染症により炎症が起こり、腸管の動きがコントロールできなくなった場合や、悪い細菌が増えすぎて、良い菌による酪酸が造れなくなった場合に下痢が生じることになります。

### 【便秘の時は、水の吸収の観点で言うと】

便秘の原因はいろいろありますが、手術を受けたことによる腸管癒着や腸にデキモノがある場合などの器質的な問題がなければ、機能的な問題となります。その場合は、上述したように水の吸収をコントロールしてやれば、ウンコがカサ高くなったり、柔らかくなることにより便が出しやすくなるといえます。例えば、便の方へ水が残るような水分吸収効果のある薬や、腸管を動かして水分吸収を邪魔する効果を持つ薬があります。そのうち腸管の動きをコントロールする薬には、腸管内にガスを発生させて刺激する薬や直接神経を刺激する薬があります。ただし、女ゴコロと同じで、同じサプライズ・イベントを行っていると慣れてしまっても喜ばなくなるのと同様に、神経を刺激する薬を何度も使っていると効き目が落ちて来てしまいますので使い方には気をつけましょう。

